

# 外交記録公開の成果及び今後の課題

2018年6月27日  
外交記録公開推進委員会

## I 成果

### 1 利用しやすい形での外交記録公開の実施

#### (1) 史料のデジタル化を推進

- 昨年12月に全文公開したファイル(25冊分)全文書データを外務省ウェブサイトに掲載
- アジア歴史資料センター(ウェブサイト)に外交史料館所蔵史料のデータを提供, 掲載中
- 主要な史料をまとめた『日本外交文書』の全冊デジタル化(最新巻を除く)

#### (2) 外交史料館の利便性向上の取組み

- 外交史料館ウェブサイトを刷新。利用手引き等を掲載
- 学生向け「史料利用セミナー」を開始

### 2 利用請求審査の透明性の向上

- 外交史料館所蔵史料で, 過去に非公開とされていた部分の見直し(再審査)を開始

### 3 外交記録に対する認知度向上の取組み

- 公開文書のデジタル化や雑誌等を通じた広報により, 認知度を高める取組みを実施  
(例) 外交専門誌「外交」45号小特集「外交記録をめぐる冒険」

# 外交記録公開の成果及び今後の課題

## II 課題

### 今後の課題

- 審査を要する史料の利用が増える中(過去5年で3倍), 人員・予算増が不十分であり, 利用までに時間を要するケースが出ている。審査の迅速化と, 利用者からの照会への対応を手厚くすることが課題。
- 利用対応に人員を割いた結果, 外交史料館への移管審査の人手が足りず, 移管冊数が減少傾向。移管を促進し, 「30年公開原則」を徹底することが課題。
- 史料のデジタル化, ボーンデジタル史料の受入れについて, 専門知識を有する人員とシステム化予算が不足。

- 利用者の裾野と利用の幅を広げるため, 必要な文書にさらに効率よくアクセスできる仕組みを提供することが課題。

### 必要な対応策

- 外交記録の特殊性(外交関係に直結)を理解し, 必要な知識を有する審査担当者の増員
- 外交と所蔵史料について高度な専門知識を持つ外交アーキビストの増員・育成
- デジタル分野と外交史料の両方に専門性を持つデジタル・アーキビストとシステム予算の確保
- 大学や学界との連携(緊密な意見交換(11月, 日本国際政治学会研究会等), 「史料利用セミナー」の定期的な開催)
- 所蔵史料検索システムの立ち上げと検索の効率化

# 外交記録公開の成果及び今後の課題

## Ⅲ 参考資料

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
移管冊数	—	3,552冊	6,079冊	4,530冊	7,171冊	3,251冊	2,718冊	1,199冊
アジア歴史資料センターへの戦後史料画像データ提供冊数・コマ数	—	—	—	—	—	—	102冊 30,632 画像	503冊 86,431 画像
閲覧者数 (のべ数, 注1)	2,237人	2,597人	2,543人	2,624人	3,008人	2,792人	2,465人	2,499人
閲覧史料 (のべ冊数, 注2)	18,672冊	22,951冊	22,459冊	22,309冊	23,063冊	22,288冊	20,145冊	20,029冊
利用請求冊数 (審査を要する史料)	—	357冊	538冊	862冊	1,318冊	713冊	1,080冊	1,596冊
アジア歴史資料センターにおける外務省史料アクセス数 (アジア歴史資料センター調べ)	—	—	—	—	—	—	—	41,537 (1-3月度)

(注1) 外交史料館に直接来館し、同館内で史料を閲覧した人数。郵送により史料の複写を入手した人数は含まない。

(注2) 外交史料館内で閲覧された史料冊数。郵送等で依頼を受けて複写した史料は含まない。なお、外交史料館が所蔵する戦後史料の約35%は、同館で常時閲覧可能。